

*** モノクロ、マン座標測定器、パーキンエルマー測定器搬入**

「モノクロ」とは太陽単色写真儀のことである。これは、かつて三鷹における太陽観測の主力器械であった。いまは東京大学理学部天文学教育研究センターの建物が建っているあたりにオバケと称された建物の東にあった。当時の姿は写真1のようであった。



写真 1 在りし日のモノクロの勇姿

モノクロの後ろの建物がオバケである。これらの建物は全て壊され、機器も散逸しており、この度、モノクロが三鷹光器に譲渡されている事が判明し、譲っていただくことが出来た。自動光電子午環望遠鏡フロアに積み込む様子が写真2である。



写真 2 PMCに釣り込まれるモノクロ

この搬入にはクレーンが必要であり、この機会に旧図書館の入口付近に窮屈に置かれていたマンの座標測定器とパーキンエルマーの写真濃度測定器の2つをクレーンで搬入した。現在の観測は、写真乾板は使われることは無く、CCDに置き換わったので座標測定器は使われなくなった。マンの座標測定器はネジ送りで座標表示はニキシー管が使われている年代物であり、納入されたのは1970年である。ただいま38歳。今やこれを使う人はいないが、11年前に定年退職され、現在、天文学会で働いている畑中さんが1週間に一度の割合で油をさすなどの手入れを続けていて、使用可能な状態に保っている。彼自身、65cm望遠鏡で撮り貯めた土星の衛星写真の測定をしたい希望をお持ちのようだ。写真3が旧図書館から運びだすため、クレーンで吊られたところである。



写真3 クレーンで吊られたマン座標測定器とPMCに設置された同機

このマンの座標測定器はネジ送りの座標測定器でネジの回転をエンコーダーで読み取り1ミクロン表示されるようになっていた。座標表示のニキシー管もいまや博物的なもので、我々の仲間でも見たことがある人はほとんどいないのではないかと思う。



写真 3 二つ並んだ器械

3つ目が、パーキンエルマーの写真濃度測定器である。これは星像の濃さを測定し、観測された天体の等級などを決めていたものである。この器械の右に見えているのが、水沢から譲ってもらったナルミマイクロフォトメーターである。写真3がパーキンエルマーの写真濃度測定器とナルミのマイクロフォトメータである。これらの器械も写真乾板による観測からCCDによる観測に変わり役割は終わった。

今回、新たに搬入した器械はこの 3 点である。マンの座標測定器は、引き続き、畑中さんによる給油などのメンテナンスが続けられ、測定可能な状態が保たれる事になっている。現在は PMC（自動光電子午環）ドームは通風孔を塞ぐ工事が出来ていないので、これらにはビニールシートを被せた養生を続けるので、見学室からの見学はまだ出来ない。

先に持ち込んだ水沢からの譲渡品と合わせ既にかかなりの展示品が揃った。現在展示されているものは、

- 1) 自動光電子午環
- 2) ソ連製 AFU カメラ（人工衛星追跡用望遠鏡）
- 3) 太陽カルシウム K ライン分光器
- 4) すばる観測装置開発用 2 段積分球光源装置
- 5) マンの座標測定器
- 6) パーキンエルマー写真濃度測定器
- 7) 水沢からのナルミマイクロフォトメーター
- 8) 水沢からの写真濃度測定器
- 9) 水沢からの分光光度計
- 10) 水沢からのセシウム原子時計
- 11) 水沢からのルビジウム原子時計
- 12) 水沢からのコンパレーター
- 13) 水沢からの柱時計
- 14) 虎尾元教授のご遺族からの PZT の模型

これらが並べられた展示の様子が写真 4、5 である。



写真 4 展示された原子時計、モノクロなど



写真 5 展示されたマンの座標測定器、ナルミのマイクロフォトメーターなど